

南白糸台小学校視察の報告について

1. 視察日 : 令和5年11月13日(月) 午前10時45分～11時30分
2. 視察先 : 府中市立南白糸台小学校 5年生学級(5年2組・33人)
東京都府中市白糸台6-48
3. 視察目的: 現在の小学生がどのようなジェンダー教育を受けているのか、報道等でしか知り得ない部分が多いことから、実際の授業を視察させていただくことで、狛江市の男女共同参画の実現に向けて、多角的な視点から考察ができるようにする。
4. 参加者 : 平野委員長、後藤委員、堤委員、大内委員(先生)
事務局: 高橋
5. 授業テーマ: 「公平な心を育てる」
6. 授業教材: 「子ども大統領」、「子ども大統領ワークシート」 ※別紙参照
7. 視察内容:

(1) 教材「子ども大統領」を読んで

■小学3年生のしょう太くんとあやちゃんは、5年生で大統領選挙に立候補している林先輩と副大統領候補のえみ先輩のどのようなところが良いと言っているのでしょうか。

(児童意見)

- ・林先輩はサッカー部で大活躍していてかっこいい。
- ・えみ先輩は「私もしっかり支えてがんばります」と言っていた。
- ・二人で学校を良くしていこうという姿勢がいい。

■あやちゃんが「5年生になったら大統領に立候補するわ」と言ったら、しょう太くんが「立候補しても男の子に負けちゃうよ」と言いましたが、その時あやちゃんはどんな気持ちだったのでしょうか。

(児童意見)

- ・どうして女の子はだめなの。
- ・なんで女の子が立候補したら男子に負けちゃうの。
- ・大統領はいつも男子がやっているけど男子でも女子でもいいと思う。

■しょう太くんはなぜ立候補しても男の子に負けちゃうよと言ったのでしょうか。

(児童意見)

- ・しょう太くん自身が男の子の方が強いと思っているから。
- ・今までの大統領はいつも男の子がやっているから。
- ・男の子の方が説得力があるから。
- ・しょう太くんが女の子は声が小さいと思っているから。

■みんなは子ども大統領は男の子と女の子どちらが向いていると思いますか。

1. タブレットに「男の子」、「女の子」、「どちらでも」の中から自分の意見を1つ選択する。
2. ワークシートにその理由を記入する。

(1の結果)

「どちらでも」が圧倒的に多く99.7%。「男の子」が3%。

■「男の子」を選んだ理由（ワークシート）

(児童意見)

- ・総理大臣は男性だし、男の子は気持ちが強いから。

■「どちらでも」を選んだ理由（ワークシート）

(児童意見)

- ・子ども大統領は男の子、女の子どちらになるか決まっているものではないから。
- ・子ども大統領をやりたい気持ちは同じ。
- ・これまで男の子がずっとやってきただけで女の子でもできるから。
- ・男の子と女の子で考え方は違うと思うが、どちらがなっても違いはないから。
- ・同じ人間であり、どちらがやっても変わらないから。
- ・学校をより良くしていこうという自覚があれば誰がやってもいいと思うから。

■子ども大統領選挙は、今後どのようにしていけばいいと思うか、しょう太くんとあやちゃんにアドバイスをしましょう（ワークシート）。

(児童意見)

- ・子ども大統領を選ぶ時は、男女関係なくこの人に任せたら学校がより良くなると思う人に投票する。
- ・みんなが学校を楽しめるかどうかを考える。
- ・男の子でも女の子でも子ども大統領をやりたいという気持ちが大事。
- ・男女関係なく、その人が学校のためになりたいと思っているならその意見を大事にする。
- ・子ども大統領を決める時は、男の子や女の子、見た目も関係なくその人の責任感が大事。
- ・立候補する時に性別は関係ないので、自分の気持ちを持つことが大事。
- ・立候補する時は人の意見ではなく自分の気持ちで決める。

■今日の授業を通して、思ったこと、考えたことを書きましょう（ワークシート）

(児童意見)

- ・自分のやりたいことをやっていいんだと思った。
- ・差別をしてはいけないと思った。
- ・男の子だから女の子だからということで、その人の自由を奪ってはいけないと思った。
- ・自分も「女の子だから」ということを言われたことがあったなと思った。
- ・これから委員長決めの時などは、男の子だから女の子だからということとは関係なく選びた

い。

- ・どちらかの性別で当たり前と思っている考えは、差別していることと同じなので、そういう考えをやめようと思った。
- ・自由を奪うことは差別になるのではいけないと思った。

(2) 日本の職業の男女比

■小中学校の教員は男性45%、女性55%となっているが、男性が多い職業は何だと思うか。
(児童意見)

- ・学校の校長先生。

■校長先生は83%が男性である。女性が多い職業は何だと思うか。
(児童意見)

- ・保健の先生、保育士、看護師。

■保育士は女性が95%、看護師は女性が92%となっている。なぜこのような職業の男女比の資料を見せたかという、みんながこれから大人になって職業を選ぶ際、大事にしてほしいことは、自分がやりたい、その職業に就いて人の役に立ちたいという気持ちを大事にしてほしいと思ったから。

例えば、男の子が将来、看護師になりたいと思った時に、周りに女の子しかいなかったとしても、自分の気持ちを大事にして、自分にとってどうすることが良いのかを大事にして生きていってほしい。男の子だから女の子だからではなく、自分がやりたい、自分が役に立ちたいという気持ちを大切にしてほしい。

(3) 視察参加委員の感想・大内委員への質問（視察後）

■視察参加委員の感想

(委員) 発表者が次の児童を指名する際に、男子から女子・女子から男子などの指名が等しく行われていました。我々昭和世代では、男子は男子を指名し、女子は女子を指名していただろうと思うと、時代の変化を実感しました。

(大内委員) いろいろな意見を聞いて自分の考えを広めたり深めたりするという視点を大切にしているためだと思います。

(委員) 男子だけになれる、または女子だけになれる、または男女比率が偏っている職業について、児童たちはどう思うか興味があります。例えば、

- *「僧侶や神主は男性しかできないのはなぜ？」
- *「助産師や保育士は女性しかできないのはなぜ？」などです。

(大内委員) 宗教や昔からの風習などが影響しているものに関しては、教える側も専門的な知識がないので、授業で取り扱うことは難しいと感じています。

「助産師や保育士は女性が多い」ことについては、他のクラスで授業をしたときに「育て

たりお世話したりする職業は女性」「まとめるのは男性」という意見が出てきました。

職業の男女比についてどう思うかは、6年生で歴史を学習した後にするのが良いと思います。中学生以降になると、日本の時代的な背景とともに、日本の課題、今後どうしていくと良いかを考えられるようになるかと思います。

(委員) 自分が想像していた以上に、また自分が小学生だった時とは違って、男女の隔て目を感じられなかった。生徒自身で次の発言者を指名する際も、男子から女子、女子から男子へというシチュエーションが頻繁に見受けられた。休み時間も男子は男子で固まるとかでもなく(固まるのが悪いという意味ではなく)好きな人と好きなタイミングで話せている様子だった。

(大内委員) 教員側も男女を意識した発言はしないので、男女で遊ぶ姿も見られます。

■大内委員への質問

(委員) 男女問わず「さん」呼びに統一するなど、近年アップデートされた指導方針や文化などがこの他にありましたら教えていただきたいです。南白糸台小学校ならではの指導方針や風土など特色があれば、併せてお聞かせください。

(大内委員)

- ・ランドセルの色が選べる。
- ・男女で色分けすることがない。
- ・以前は男女別の番号を健康診断や体力テストのときに使用していたが、今は男女混合の番号で行っている。
- ・自校ではありませんが、男女混合の列にするところも増えてきています。

(委員) 今回の授業について、生徒からの反応を教えてください。情報誌に掲載可能なコメントがあればいくつかピックアップお願いしたいです。

(大内委員)

- ・男子だから女子だからということで自由を奪ってしまうこともあるので、平等に考えた方がいい。
- ・自分も女の子だからということで決めたことがあったから、その人の意見や責任をもってやれる人を選ぶ。
- ・男女で決めないで同じ人間だから、区別みたいなことはしない。
- ・これからは男女関係なく過ごしていきたい。
- ・男の子だから、女の子だからこうしなければならないというルールはないのだから、遠慮しないで自分の意見をしっかりとつことが大切だと思った。

(委員) 今回の授業について、大内さんと先生方の御感想を教えてください。

(大内委員)

- ・子どもたちは大人が思っているより男女を意識しておらず、大人と子どもでの男女に対す

る意識が違うのだと感じた。今後も大人が男女平等を意識して過ごしていくことが大切になる。

- ・男女関係なく職業を選ぶことはよいが、就いた職業の中で男女を分けて取り組まなければならないことも出てくると思う。看護師を例に挙げると、女性の患者さんの中には男性に体を拭いてほしくないということもあるだろうから。
- ・小学生ではあまり男女について意識していないが、どの成長段階から男女の格差が生まれ始めるのか興味が出てきた。

(委員) 今回の授業後に、生徒達に何かしらの価値観の変化が感じられましたでしょうか。

(大内委員)

- ・男女関係なく考えることが当たり前と感じていた児童がほとんどだった。しかし、一部で無意識のうちに「男女を考えて意思決定している」ことに気付いた児童もいた。何かを決める際には、男子(女子)が多いから遠慮するのではなく、自分がやりたいものをしてみようとする振り返りが見られた。

(委員) ポーラさんご支給の冊子の配布状況について。配布済みでしたら、授業で扱った部分を教えてください。

(大内委員)

- ・イラストが掲載されていて「おかしいところはない？」と聞く箇所(2023版・P4)。子どもたちはすぐに気付き、「自分は『外科医は男が当たり前』って考えたことはないよ。」などと言っていた。
- ・家事分担の時間に関しては、あまり考えたことがなかったためか、きょとんとしていた。

(委員) 発言する子に差がどうしても出てしまうと思うが、あまり手を挙げない子にも意見を述べてもらうような引き出しなどあれば知りたいです。

(大内委員)

- ・児童が自分の意見を書いているときに○をつけたり、肯定的な言葉かけをしたりして自信をもたせる。
- ・児童が何を書いているのかを把握し、意図的な指名をする。
- ・ペアやグループで交流させて、どのような意見が出たかを吸い上げる。
- ・意見を言うのが苦手な児童には、「○○さんと同じように感じた人」などと言って挙手をさせ、授業に参加できるようにする。